

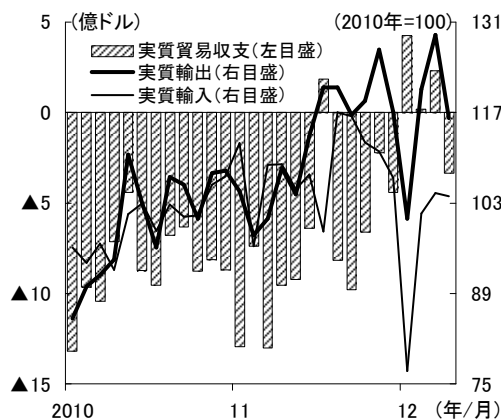


ベトナム輸出翳りの兆し

～ 消費主導型成長へ転換 ～

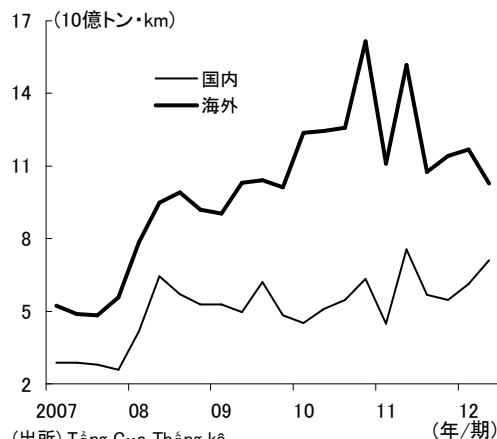
- (1) ベトナム輸出入に翳りの兆し。実質輸出が昨年半ば以降一進一退に転じる一方、実質輸入は昨年半ばをピークに減勢転換（図表1）。従来、同国経済は外資流入を起点とする輸出・投資主導型の高度成長。もっとも資本財や部品輸入の増勢が輸出を上回り、純輸出はマイナスに作用。しかし、実質貿易収支は昨年半ば以降マイナス幅が縮小。さらに本年入り後プラスへ。主因は輸入の減少。内需の減速を示唆。一方、輸出は月毎に大きな振れ。昨年は2月だったテト（旧正月）が今年は1月になった結果、季調値でみると1月が大きく減少したものの、2～3月に盛り上がり。しかし、4月は再び弱含み。
- (2) 実質輸出入は価格指数から逆算するなど試算値。正確な実態は不詳。そこで物流動向をみると、国内貨物は本年入り後、増勢回復の兆し（図表2）。それに対して、海外貨物は昨年初来、翳りが広がる展開。本年入り後も、少なくとも4月まで弱含み。実質輸出入動向を裏打ちする動き。
- (3) 輸出鈍化の主因は衣料品や履物（図表3）。2000年代入り後の大幅な輸出増は軽工業品が牽引。かつて輸出を支えた原油は頭打ち。2000年と11年の総輸出に占めるシェアは原油が24%から8%、履物が11%から7%に減少に対し、衣料品は13%から17%へ増加。しかし、本年に入り、衣料品や履物の増勢が急速に鈍化。3～4月の前年比増加率は衣料品が1%増、履物が2%増とほぼ頭打ちに。ベトナム繊維アパレル協会によると5月の衣料品輸出は同0.1%の見込み。さらに同協会広報担当によると、輸出受注が2桁マイナス。当面、輸出の力強い増勢回復は期待薄。
- (4) それに対して内需、とりわけ消費は着実な増勢持続（図表4）。緩やかな雇用の増加に加え、労働需給逼迫に伴う賃金上昇が国内市場の拡大を後押し。経済のサービス化が本格始動へ。外需主導型経済成長から消費主導の着実な成長軌道への転換が進展。

（図表1）ベトナムの実質輸出入と実質収支（季調済）



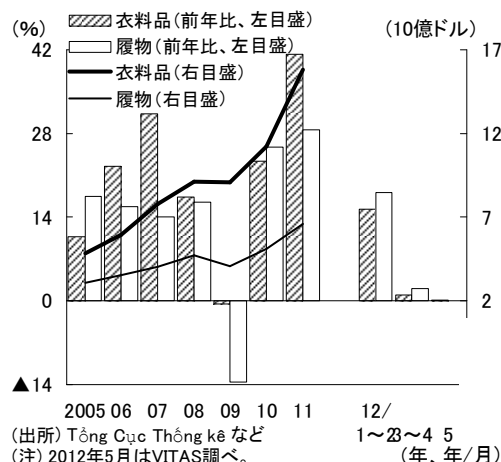
（出所）World Bankなど（注）2012年1～4月の輸出入額（原数）は、12年第1四半期の輸出入価格から逆算。

（図表2）貨物輸送量（季調済）



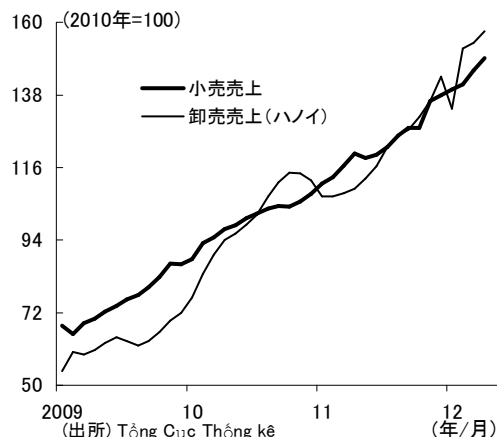
（出所）Tổng Cục Thống kê（注）2012年第2四半期は4月値。

（図表3）衣料品・履物輸出の推移



（出所）Tổng Cục Thống kê など（注）2012年5月はVITAS調べ。

（図表4）小売・卸売売上高の推移（季調済）



（出所）Tổng Cục Thống kê